

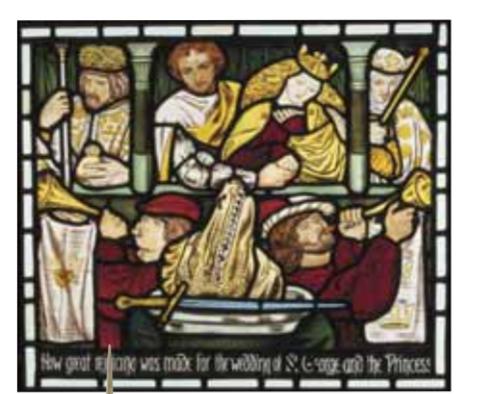
役にたたないもの、
美しいと思わないものを、
家に置いてはならない。

HAVE NOTHING IN YOUR HOUSES
THAT YOU DO NOT KNOW TO BE
USEFUL OR BELIEVE TO BE BEAUTIFUL.

ウィリアム・モリス
WILLIAM MORRIS

ようこそ「アーツ&クラフツ」の世界へ

「アーツ&クラフツ」をご存じですか。19世紀後半のイギリスで興り、今日の暮らしに大きな影響を与えたデザイン運動です。アーツ&クラフツが目指したものとは実に多岐です。産業化・工業化が進む時代を背景に、失われた手仕事の良さを見直し、自然や伝統に美を再発見します。さらには過剰な装飾ではなく、シンプルな美しさを生活に取り入れるライフスタイルをいち早く提案しました。



主導的な立場にあったのは、思想家ジョン・ラスキン(1819-1900)と、デザイナーで思想家、詩人でもあったウィリアム・モリス(1834-96)でした。ラファエル前派のロセッティやバーン=ジョーンズらが参加したモリス・マーシャル・フォーカー商会(のちにモリス商会)を中心に、装飾藝術をめぐって活発な活動がロンドンで繰り広げられました。1880年代末には、アーツ&クラフツ展協会が創設され、各地で意欲的な展覧会が開かれたり、工房が作られたりしました。アーツ&クラフツの考え方と試みは、出版や調査を通じて、瞬く間にヨーロッパやアメリカ、日本にも伝わりました。各地での歴史、文化、社会情勢の影響を受けながら、多様な作品が生み出されています。住宅を中心とする総合藝術の探究は、その後のモダン・デザインを生む潮流の一つとなりました。

*
本展は、装飾藝術の殿堂、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館(V&A)との共同企画です。アーツ&クラフツの精神の広がりを、イギリス、ヨーロッパ、日本で作られた美しい作例を通じて概観する、またとない機会です。V&Aと日本国内の美術館などから、家具、テーブルウェア、ファブリック、服飾、書籍やグラフィック・デザインなど約280点を一堂に出品する見応え満点の内容です。

上:D.G.ロセッティ「聖ゲオルギウス伝ステンドグラス・パネル」1862年頃
下左:C.F.A.ヴァン・エイク「置き時計」1895-96年
下右:アレクサンダー・フィッシャー「瓶:孔雀」1899年頃(いずれもV&A蔵)

ウィリアム・モリス、ウィーン工房、民芸まで 約280点、一挙展示

第1部はアーツ&クラフツのルーツ、イギリスが舞台。モリスの壁紙、ロセッティのステンドグラスなど、V&Aが所蔵する名品のほか、マッキントッシュやウォイジー、アシュビーラ、都市や田園で活動した作家の多彩な作品約110点を紹介。モリスが晩年まで使用したケルムスコット・マナーの一部を再現し、生活空間の一例として展示します。

第2部は、オーストリア、ドイツなどで展開を、約50点で構成。イギリスのギルドを参考に創設した「ウィーン工房」を中心に、ヨーゼフ・ホーフマンやクロマン・モーザーらが、当時の最先端都市ウィーンならではの洗練されたアヴァンギャルドなデザインを生み出します。ドイツの



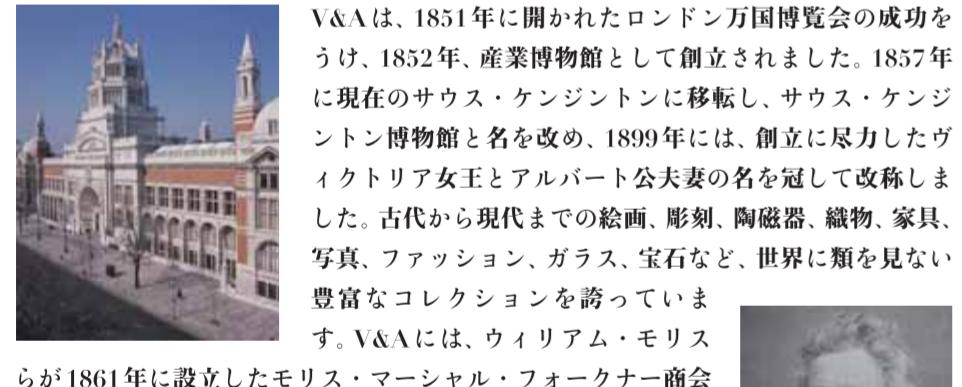
「ダルムシュタット藝術家村」での試みや、民族のアイデンティティを結集させた北欧やロシアの動きにも注目します。

第3部は日本の約120点。民芸運動を日本でのアーツ&クラフツと位置づけ、柳宗悦が生み出した民芸の考え方、収集品を通じて紹介。さらには、柳を中心で昭和初期に建てられた「三国荘」の一部を再現展示。柳らが集めた各地の収集品に加え、若き黒田辰次、濱田庄司、河井寛次郎ら作の調度品で飾られた室内は、民芸の原点ともいえます。そのほか初期の民芸を代表する富本憲吉、濱田、河井、黒田、バーナード・リーチ、芹沢鈴介、棟方志功の作品群も紹介します。



ウィリアム・モリス「内装用ファブリック」: いちご盗難 1883年 (V&A蔵)

ヴィクトリア&アルバート美術館と ウィリアム・モリス



V&Aは、1851年に開かれたロンドン万国博覧会の成功をうけ、1852年、産業博物館として創立されました。1857年に現在のサウス・ケンジントンに移転し、サウス・ケンジントン博物館と名を改め、1899年には、創立に尽力したヴィクトリア女王とアルバート公夫妻の名を冠して改称しました。古代から現代までの絵画、彫刻、陶磁器、織物、家具、写真、ファッション、ガラス、宝石など、世界に類を見ない豊富なコレクションを誇っています。V&Aには、ウィリアム・モリスらが1861年に設立したモリス・マーシャル・フォーカー商会が内装を手掛けた食堂「グリーン・ダイニングルーム」が現存しています。世界最初の美術館内食堂の一つで、フィリップ・ウェッブの監督の下、バーン=ジョーンズがパネルを、モリスが天井の模様を担当。度重なる修復を経て、現在も当時の姿を見ることができます。本展には、同ルームのデザインも展示されます。

写真提供: 大阪芸術大学図書館

「生活と芸術—アーツ & クラフツ展」 ウィリアム・モリスから民芸まで

LIFE AND ART: ARTS & CRAFTS FROM MORRIS TO MINGEI

2008年9月13日(土)~11月9日(日) 京都国立近代美術館
主催: 京都国立近代美術館、朝日新聞社 協賛: 大日本印刷、大阪芸術大学

2009年1月24日(土)~4月5日(日) 東京都美術館
主催: 東京都美術館、朝日新聞社 協賛: 大日本印刷

2009年6月5日(金)~8月16日(日) 愛知県美術館(予定)
主催: 愛知県美術館、朝日新聞社 協賛: 大日本印刷

企画: ヴィクトリア&アルバート美術館 後援: ブリティッシュ・カウンシル、外務省、文化庁 協力: 日本航空

京都展8月13日前売り販売開始予定

公式HP: <http://www.asahi.com/ac/> (7月1日オープン予定)

わたしが楽しむ
「生活と芸術」運動、
はじまりはじまり。

LIFE

できることなら日々を大切に、心地よく暮らしたい。
でも、じぶんの暮らしが「芸術」になるだなんて、それはちょっと。
と、ふつうに考えるすべてのひとへ。
きっとそういう気持ちが、生活の芸術家の種となるのだと思います。
100年とすこし前のイギリスで生まれた、「アーツ&クラフツ」の精神は、
歐米や日本に姿をかたちを変えながら浸透し、
時を経てなお深く鮮新に、今日の生活に根ざしています。
それは教科書のような概念ではなく、よいモノを見る眼として、
生活についての思想として、生き方として、いつも生きている精神です。
そもそも芸術という解釈に少しだけズレがあるのだとしたら、
「いつもよいモノ、よいことについて、自嘲自答をくりかえすこと」を
芸術だと考えてみたらどうでしょう。
いつも買物のたびに再現される、あの迷える姿も、もしかしたら芸術なのでは。
このキャンペーンは、モノや情報があふれかえる今を生きるわたしたちが、
毎日をよりよく生きるために運動として、現代社会におけるリアルな
「アーツ&クラフツ」を発信してゆくものです。
各界のオピニオン・リーダーや様々な分野の方々が考える、
それぞれの「アーツ&クラフツ」なスタイルをご紹介したりと、
「生活と芸術」が楽しく身近に感じられるコンテンツがあります。
さあ、ごいっしょに、あなたが楽しむ「生活と芸術」運動、はじまりです。

<http://www.asahi.com/la/>
(8月1日オープン予定)

